

第2章 新市の概況

2-1 位置・地勢・面積

両市町の区域は、愛知県西部、尾張平野のほぼ中央に位置し、南部は名古屋市に隣接しています。また、北部は北名古屋市、一宮市及び稲沢市に接し、東部は名古屋市に、西部は甚目寺町に接しています。

清須市方面は比較的平坦で庄内川の下流域にあり、ほとんどの地域は海拔 10m 未満となっています。一方、春日町方面は、田畑がゆったりと広がる田園都市の顔を持っています。両市町の区域では、庄内川のほかに新川、五条川などの河川が流れ、豊かな水辺環境に恵まれ、四季折々の風景を楽しむことができます。

交通は広域の利便性に恵まれ、J R 東海道本線、名鉄名古屋本線・犬山線・津島線及び東海交通事業城北線の鉄道網のほか、東名阪自動車道、名古屋高速 6 号清須線、16 号一宮線、国道 22 号、302 号などの道路網により周辺都市との連携が図られています。

両市町の面積は、1,732ha で東西約 5.5km、南北約 8.0km の広がりを持ち、愛知県の面積の 0.34% に当たります。地目別では、宅地 (44.7%) が最も多く、次に農用地 (20.4%)、道路 (19.7%)、水面・河川・水路 (6.2%)、その他 (9.8%) となっています。

地目別面積

(単位：ha)

	総面積	宅地		農用地			森林・原野	道路	水面・河川・水路	その他 2)
		住宅地	その他 1)	田	畑	採草放牧地				
清須市	1,331	344	271	108	123	-	-	249	67	169
春日町	401*	78	80	62	61	-	-	92	41	0
新市	1,732	422	351	170	184	-	-	341	108	169
構成比	100.0%	24.4%	20.3%	9.8%	10.6%	-	-	19.7%	6.2%	9.8%

*注 1: その他 1) は「宅地」から「住宅地」を除いた工業用地など。その他 2) は、総面積から「宅地」、「農用地」、「森林・原野」、「道路」及び「水面・河川・水路」の各面積を差し引いたものである。

*注 2: 春日町については、地目別面積を合計した値と総面積の値が一致しない。

出典：愛知県地域振興部土地水資源課「土地に関する統計年報」平成 19 年版

2-2 人口・世帯数

(1) 人口推移

清須市および春日町の合併後の新市の平成 12 年から平成 17 年まで各年の人口・世帯数の推移は以下のとおりです。

平成 12 年から平成 17 年までの新市の人口推移をみると、平成 12 年から平成 14 年まで減少傾向となるが、平成 14 年以降増加傾向となっています。

また、両市町別の人口推移をみると、清須市では、平成 12 年から平成 14 年まで

減少傾向で、その後増加傾向となっています。春日町では、平成13年に減少後、平成14年から平成15年にかけて増加し、再び平成16年に減少して、その後増加しています。

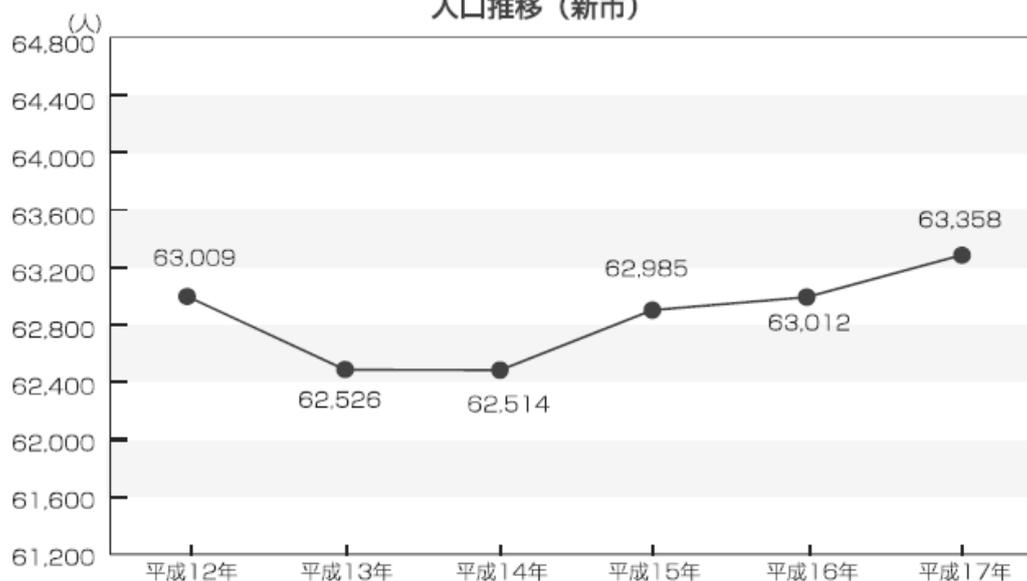
人口推移

(単位：人、%)

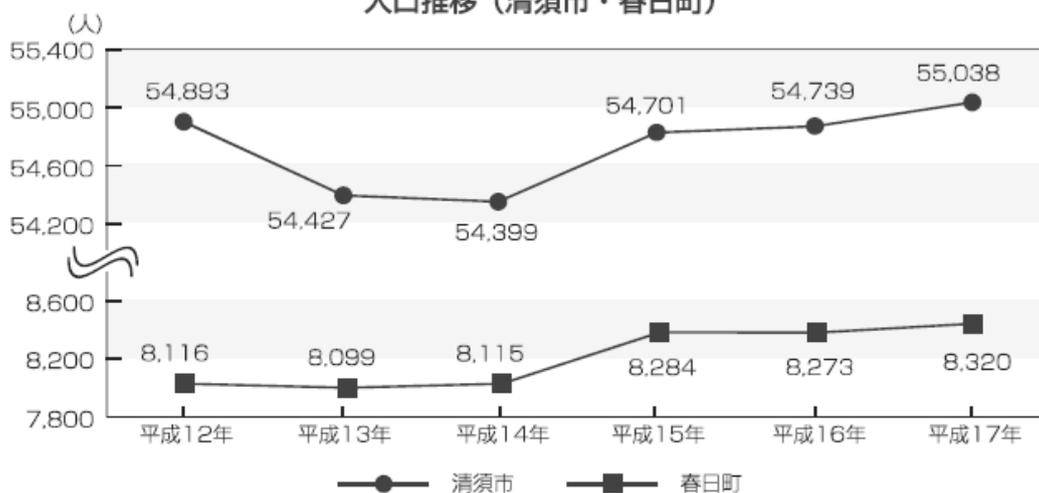
	平成12年	13年	14年	15年	16年	17年
清須市	54,893	54,427	54,399	54,701	54,739	55,038
前年比		-0.86%	-0.05%	0.55%	0.07%	0.54%
春日町	8,116	8,099	8,115	8,284	8,273	8,320
前年比		-0.21%	0.20%	2.04%	-0.13%	0.56%
新市	63,009	62,526	62,514	62,985	63,012	63,358
前年比		-0.77%	-0.02%	0.75%	0.04%	0.55%

出典：平成12、17年は国勢調査、13年～16年は愛知県人口動向調査

人口推移（新市）

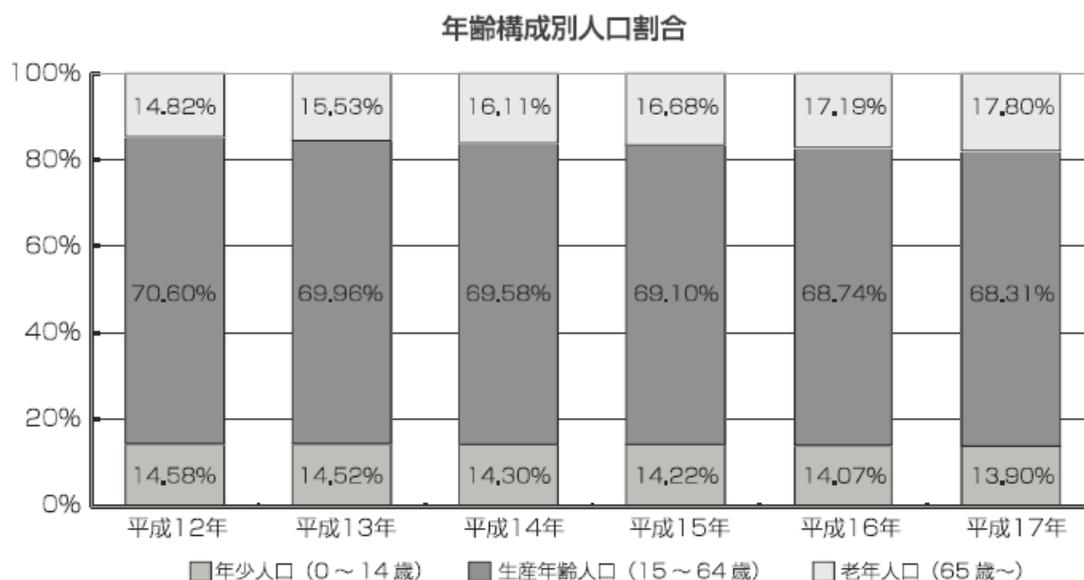


人口推移（清須市・春日町）



平成12年から平成17年までの新市の年齢構成別人口割合をみると年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が高まっています。平成12年には、年少人口割合14.58%、老年人口割合14.82%となっていますが、平成17年の年代別人口割合は、年少人口割合13.90%、老年人口割合17.80%となっています。

両市町別に平成17年の年代別人口割合をみると、年少人口割合（13.93%）、老年人口割合（17.98%）は清須市が高く、生産年齢人口割合（69.74%）は春日町のほうが高くなっています。



年代別人口割合 (平成17年)

	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65～歳)
清 須 市	13.93%	68.09%	17.98%
春 日 町	13.67%	69.74%	16.60%
新 市	13.90%	68.31%	17.80%

*注1：表示単位未満四捨五入により、100%にならない場合がある。

*注2：年齢構成別人口には「年齢不詳」を含まない。

(2) 世帯数推移

平成12年から平成17年までの世帯数推移は以下のとおりとなります。新市の世帯数推移をみると、平成13年に減少し、その後平成16年まで増加が続いていましたが、平成17年に再び減少しています。

両市町別にみると、清須市では平成13年（19,657世帯）に減少したあと、平成17年（20,882世帯）まで増加が続いています。春日町では、平成16年（2,963世帯）まで増加傾向にありましたが、平成17年（2,587世帯）に減少に転じています。

新市の1世帯当たり人員の推移をみると、緩やかな減少傾向となっており、平成

12年(2.81人)から平成17年(2.70人)までに0.11人が減少しています。全体的にみると、世帯数の増加と1世帯当たり人員の減少がみられ、核家族化の進行がうかがえます。

世帯数推移

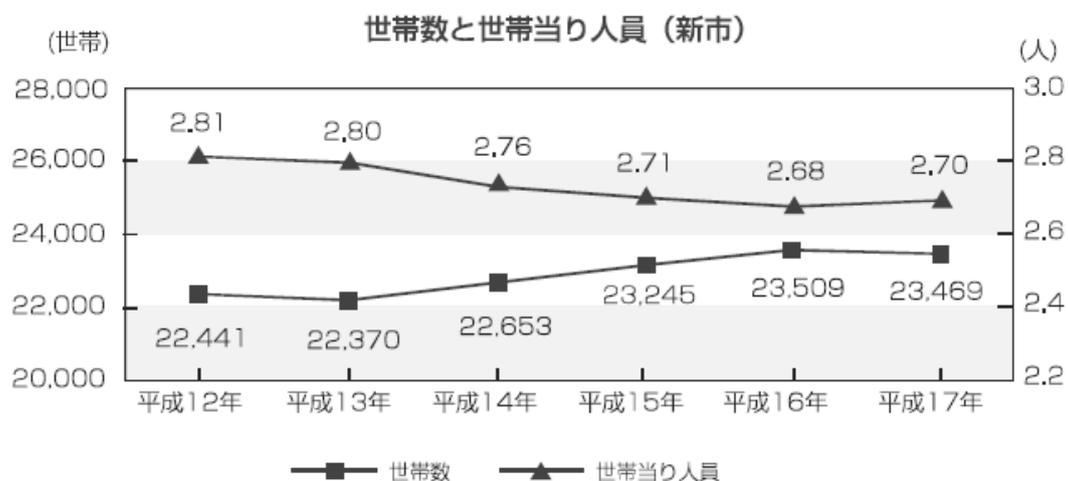
(単位：世帯、%)

	平成12年	13年	14年	15年	16年	17年
清須市	19,743	19,651	19,898	20,304	20,546	20,882
前年比		-0.47%	1.24%	2.00%	1.18%	1.61%
春日町	2,698	2,719	2,755	2,941	2,963	2,587
前年比		0.77%	1.31%	6.32%	0.74%	-14.53%
新市	22,441	22,370	22,653	23,245	23,509	23,469
前年比		-0.32%	1.25%	2.55%	1.12%	-0.17%

世帯当たり人員

(単位：人、%)

	平成12年	13年	14年	15年	16年	17年
清須市	2.78	2.77	2.73	2.69	2.66	2.64
前年比		-0.36%	-1.47%	-1.49%	-1.13%	-0.76%
春日町	3.01	2.98	2.95	2.82	2.79	3.22
前年比		-1.01%	-1.02%	-4.61%	-1.08%	13.35%
新市	2.81	2.80	2.76	2.71	2.68	2.70
前年比		-0.36%	-1.45%	-1.85%	-1.12%	0.74%



2-3 歴史・沿革

(1) 近代以前

清須市の区域の歴史ははるか遠く、尾張平野最大の遺跡である朝日遺跡に集落が開かれた弥生時代までさかのぼります。

また、室町時代のはじめ守護所下津城の別郭として築かれた清洲城など数多くの歴史資源が各地に残っています。弘治元年（1555 年）戦国武将織田信長公が那古野城から清洲城へ入城し、慶長年間には城下町一帯が「関東の巨鎮」と称され、文化の中心地として、また尾張の要所として栄えた歴史を持っています。

さらに、関ヶ原の合戦で勝利を収めた徳川家康公が通ったとされ、名古屋と中山道を結ぶ最も重要な道路と位置づけられていた美濃街道を、吉例街道として、江戸時代には数多くの大名たちが縁起を担いで通り、家康公の命により開設された青物市場とあわせ、宿場町として大いに栄えた歴史も有しています。

江戸時代中期には、庄内川の氾濫により幾度となく水害にあっていた当時において、多くの農民や地元の役人たちの尊い汗と犠牲により天明 7 年（1787 年）に新川が竣工されています。

春日町の区域の歴史も弥生時代までさかのぼります。町内には朝日遺跡や竹村遺跡があり、このあたりで集落が形成されていたことがうかがえます。

16 世紀に入ると、清洲城下の発展とともに人口も増加しました。天明 3 年（1783 年）には、落合地内に尾張藩清須代官陣屋が設けられ、政務等が執られていました。

また、江戸時代初期より宮重大根の栽培が始まり、尾張徳川家にも献上されており、江戸時代中期には全国に知れ渡るところとなりました。

(2) 近代以後

近代に入ると、明治 13 年（1880 年）春日井郡が東西の 2 郡に分かれて西春日井郡が誕生した後、西春日井郡内の町村で合併が繰り返されてきました。清須市は、西枇杷島町、清洲町、新川町の 3 町が合併し、平成 17 年に誕生し、現在に至っています。

春日町は明治 22 年（1889 年）の「町村制」の実施に伴いできた下之郷村・落合村の 2 村の合併により、明治 39 年（1906 年）に春日村が誕生しました。その後、平成 2 年（1990 年）に町制が施行され春日町となり、現在に至っています。

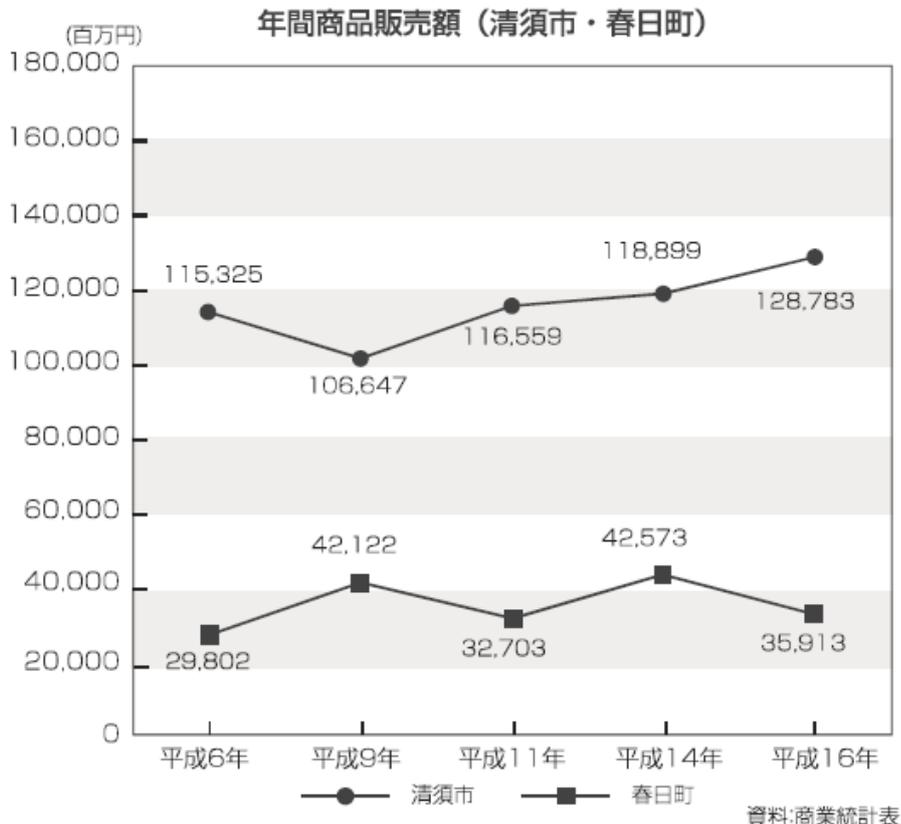
2-4 産業

(1) 商業

新市の商店数は平成16年で730、従業者数が5,329人、年間商品販売額が164,696百万円です。

平成6年から平成16年までの年間商品販売額推移をみると、一貫して増加傾向にあります。

両市町別の年間商品販売額推移をみると、清須市では、平成6年から平成9年にかけて減少しており、その後は増加が続いています。春日町では、平成6年から平成16年にかけて、増減を繰り返しています。

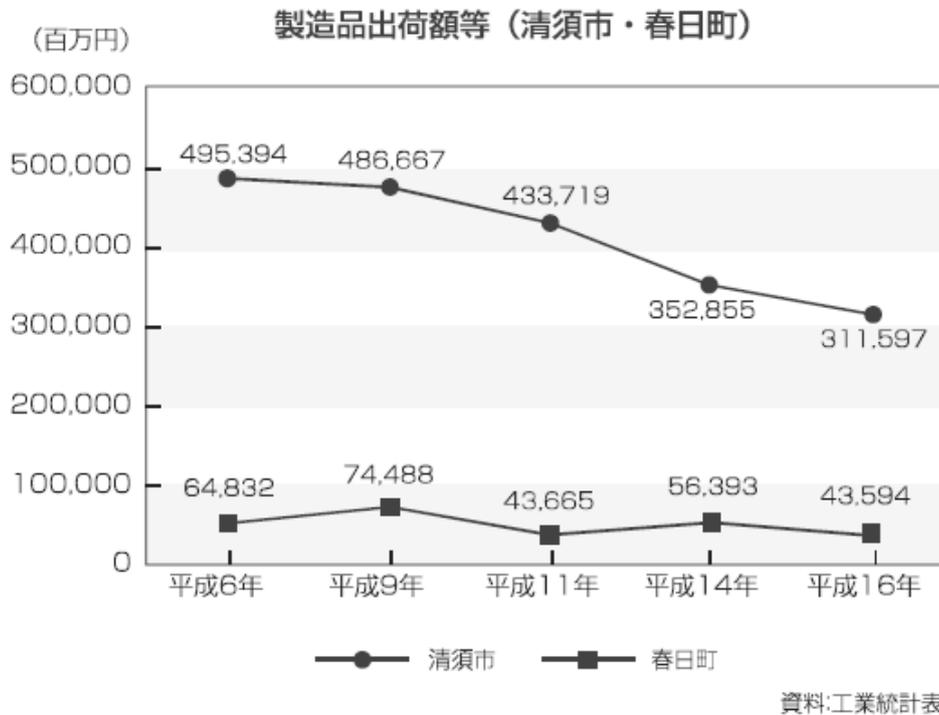
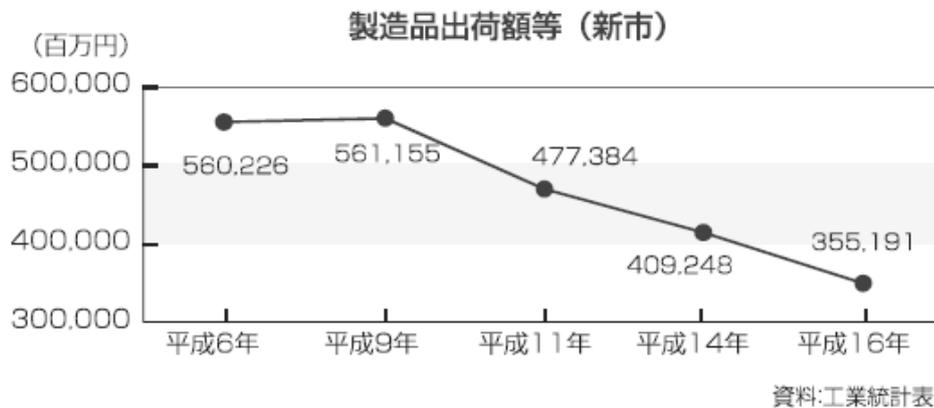


(2) 工業

新市の事業所数は平成16年で264、従業者数が9,244人、製造品出荷額等が355,191百万円です。

平成6年から平成16年までの製造品出荷額等推移をみると、近年は減少傾向にあります。

両市町別の製造品出荷額等推移をみると、清須市では減少傾向となっていますが、春日町では、ほぼ横ばいに推移しています。

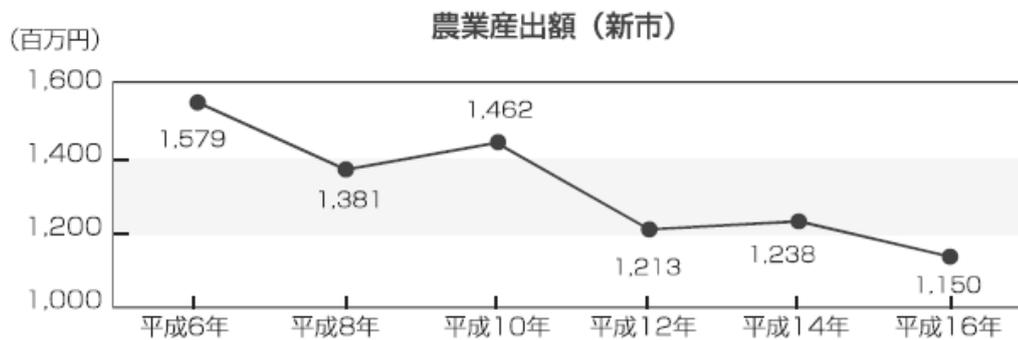


(3) 農業

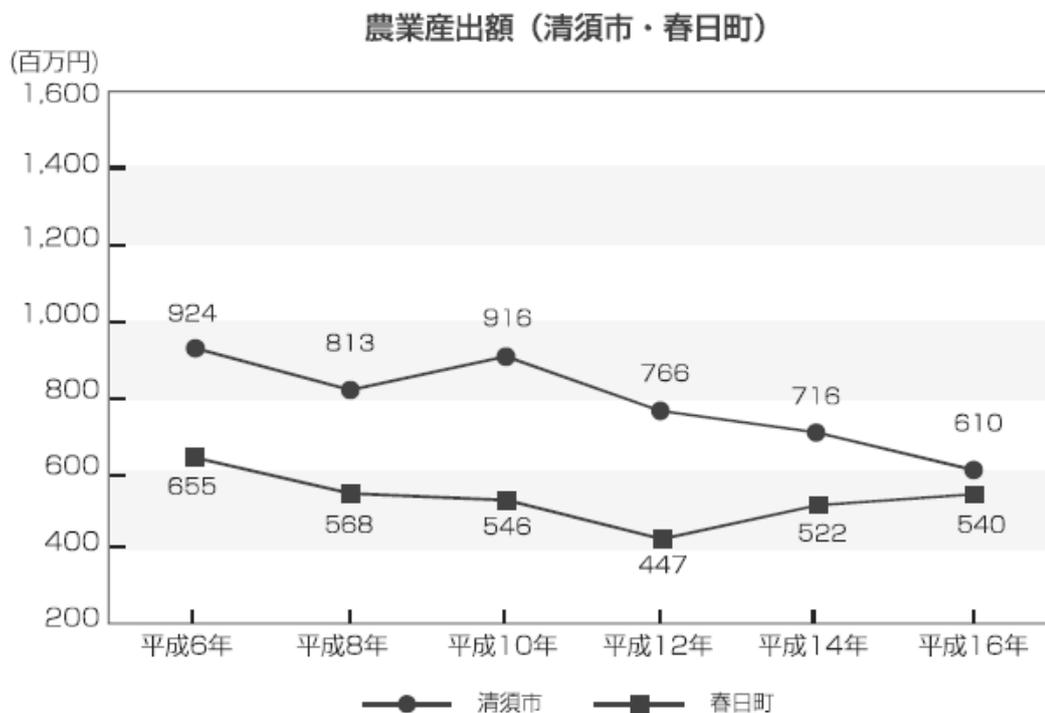
新市の農家数（経営体数）は平成16年で367、農業産出額が1,150百万円です。

平成6年から平成16年までの農業産出額の推移をみると、増減を繰り返しつつも減少傾向にあります。

両市町別の農業産出額推移をみると、清須市では平成10年までは増減を繰り返していますが、その後は減少傾向となっています。春日町では平成12年までは減少傾向でしたが、その後は増加傾向となっています。



資料:愛知農林水産統計年報



資料:愛知農林水産統計年報